

2. 2020 年度の主な行事

2.1. 入試・広報活動

新型コロナウイルス感染症対策のための緊急事態宣言の発令などにより、学内外の催し物の多くが中止されました。毎年行われていた北九州市主催の「北九州ゆめみらい 2020」や、学生広報員による高校訪問も中止となりました。そのような中でも、広く産業衛生科学学科が理解されることを目指して、いくつかの取組みを行いました。Web オープンキャンパスの開催、少人数のオープンラボの開催、そして学科が所属する産業保健学部を紹介する「産業保健学部 2021」のパンフレット、学科独自の紹介チラシを、毎年同様に発行しました。さらにインターネット上の広報として、リクルート社およびパスナビの媒体やネットサービスも活用しました。また、秋口から可能となった入試事務室による各地での説明会も行われました。2021 年度も、ほぼ同様の日程で学科広報活動を実施する予定です。

表 入試広報の取組み・催し物への参加

日時	取組み・催し物	場所	概要	参加者など
7, 8 月	高校予備校訪問 および高校での 学科説明会	福岡県・山口 県・熊本などの 80 校程度の訪 問	進路担当教諭への学科 名称変更と入試関連情 報および教育・就職状 況の説明	学科スタッフ
7 月 9 日, 8 月 1 日, 9 月 6 日	Web オープンキ ャンパス	産業医科大学 から	入試関連情報および学 科紹介、学生の説明	学生および関係 者の約 20 名の 参加
8 月 3 日 ～14 日	オープンラボ	産業医科大学 6 号館・学科実 習室等	詳しい学科紹介、学科 内ツアー	学生および関係 者の 13 名の参 加

7.19/8.2 8.1/9.6 産業保健学部 Web学科説明会を開催

7 月 19 日（日）と 8 月 2 日（日）午後 1 時から看護学科 Web 説明会、8 月 1 日（土）と 9 月 6 日（日）午後 3 時から産業衛生科学学科 Web 説明会を開催しました。

今年は、新型コロナウイルス感染症拡大予防の対策のため、従来のオープンキャンパスを中止し、Zoom を使用した Web での学科説明会となりました。

事前予約制で、参加申込者数が 184 名（内訳：看護学科 145 名、産業衛生科学学科 39 名）で、福岡県内を中心に遠くは北陸からの申込がありました。

看護学科は、教員による学科紹介、令和 3 年度入試説明、産業保健師の説明に続き、在学生によるオンライン学校紹介と女子寮紹介の後、高校生をグループ分けして、在学生との Zoom 交流会を実施しました。

産業衛生科学学科では、教員による学科紹介、令和 3 年度入試説明、卒業生及び在学生による体験談の後、高校生と在学生と卒業生との Zoom 交流会を実施しました。

特に学生による Zoom 交流会は盛況で、受験の際の体験談や大学生活などについて直接話が聞けるため、参加者から大変好評を得ました。

このたびの Web 学科説明会にご協力いただきました関係教職員、卒業生、学生スタッフの皆様、本当にありがとうございました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

次年度のご協力もどうぞよろしくお願いいたします。



看護学科



産業衛生科学学科

（入試事務室）

図 Web オープンキャンパスの様子（産業医科大学ニュース 10 月号から）

なお、2020 年度は大学ホームページの刷新を機に、公式ユーチューブコーナーを設け、新たに、産業医科大学産業保健学部および産業医科大学産業保健学部産業衛生科学科をアピールする動画を引きつづき掲載し、産業衛生科学科の特徴と将来性、在学生へのインタビューなど新しい学科の紹介とともに、就学資金制度や就職活動に対するサポートなどをわかりやすく伝えています。

2.2. 教務

様々な科目の学修の上で、下記のような卒論に結実しています。

表 2020 年度 4 年生の卒業研究のタイトル

氏名	指導	タイトル
秋枝亮多	庄司	安全・健康行動におけるナッジ効果の実証分析
石井 克樹	山田	ウェアラブル血圧計を用いた蓄積疲労の評価方法の予備的検討
石田 啓剛	倉岡	異なる精神課題遂行時におけるフロー状態と生理的指標の差異
井ノ口 真至	石松	新規PM2.5捕集サンプラーによるPM2.5中微生物捕集の検討
植木 詩織	原、樋上	江戸時代小倉藩城下に居住した幼少児の骨の重金属汚染について
奥 彩加	石田尾	光触媒溶射吸着材を用いたメタノールの吸着・分解特性
川上 泰毅	樋上	有機溶剤とタバコ臭に対するモミ殻活性炭の吸着特性
西光 妙	山本	大学の化学実験教育における安全衛生管理—文献レビューおよび教育プログラム開発のための予備的検討
世良 俊貴	庄司	建設業における働き方改革の推進方法
長尾 向洋	宮内	各防護手袋材料に対する有機溶剤の耐透過性能についての研究
中澤 京香	樋上	三次喫煙評価に適したにおいモニターの探索
中嶋 友佳	樋上	皮膚ガス放散からストレスを評価する試み
長濱 卓弥	宮内	ITO ターゲット研削作業工程作業におけるマスク面体顔面接触部位のインジウム付着量についての研究
西村 大輝	原	従来の測定方法である A・B 測定と新たな作業環境測定である個人サンプリング法の C 測定との比較
旗生 智	石田尾	カラムを併用した PID センサーによる混合有機溶剤蒸気の濃度分析
原田 将臣	宮内	個人サンプリング法の測定時間と評価の関係についての検討

原田 雄馬	伊藤	自治体職場における OSHMS 定着過程の安全衛生活動に関する考察
藤井 栄宜	石田尾	エキシマランプを有する局所排気装置を用いたホルムアルデヒドの分解特性
宗元 亜美	原	化学物質のリスクアセスメントツールのリスト化と化学物質の危険源特定 の能力向上を目指したリスクアセスメント研修方法の検討
森山 大和	倉岡	コロナ禍における大学教育と大学生活不安に関する研究
山口 和記	庄司	作業現場における効果的なリスクアセスメント手法に関する研究

2.3. 進路指導（キャリア支援活動）

環境マネジメント学科の 4 年生を対象として、修学資金貸与制度の返還免除対象の職務以外を含めて 60 名以上の求人がありました。4 年生に対し、それら求人の紹介をするとともに、本学科卒業生から生の声を聴く、多くの場を設けています。また、引き続き求人していただけるように、本学科紹介を兼ねて企業訪問も続けています。

2020 年度は、以下のような取り組みを行いました。

2.3.1 求人開拓企業訪問

企業の安全衛生部門及び人事部門を訪問して、本学科の紹介を行い、求人の依頼を行いました。本年度は 15 社を訪問しました。

2.3.2 在校生向け進路支援活動

年度初めに、4 年生を対象として進路面談を行い、学生自身の希望を確認するとともに、就職に向けての助言を行いました。その後も進路が決定するまで、面談やエントリーシート指導、面接指導を適宜行いました。

1～3 年生に対しては、下記のスケジュールで、「進路指導ガイダンス」、「卒業生との懇談会*¹⁾」、「卒業生と語る会*²⁾」を開催しました。

表 2.3.1 令和 2 年度の主な活動（環境マネジメント学科・産業衛生科学科）

実施日	行事	対象	備考
R2.7.20(月)	労働基準行政に関する講習会	全員（2、3 年必須）	2 年生 19 名、3 年生 19 名出席
R2.9.25(金)	WEB 卒業生との懇談会	全員（全学年）	1 年生 17 名、2 年生 20 名、3 年生 17 名出席
R2.5.29(金)	WEB 第 1 回進路指導ガイダンス	3 年生	3 年生 20 名出席
R2.11.20(金)	WEB 卒業生と語る会 1	全員（2、3 年必須）	1 年生 19 名、2 年生 19 名、3 年生 19 名出席
R3.1.4(月)	WEB 第 2 回進路指導ガイダンス	3 年生	3 年生 20 名出席
R3.1.20(水)	WEB 第 1 回進路指導ガイダンス	2 年生	2 年生 20 名出席
R3.2.22(月)	WEB 合同就職対策講座	3 年生	3 年生 20 名出席
R3.3.2(火)	WEB 労働基準監督官採用試	全員（2、3 年必須）	1 年生 6 名、2 年生

	説明会		17名、3年生19名
R3.2.26(金)	WEB 卒業生と語る会 2	全員（全学年）	1年生17名、2年生11名、3年生19名出席
R3.3.8(月)	WEB 合同就職対策講座	3年生	3年生20名出席
R3.3.10(水)	個別面談	3年生	実施予定
R3.3	企業説明会	3年生	随時実施

＊1 卒業生との懇談会

1 回実施（看護学科と合同）

9月25日（金）講師：山尾 哲司（2011年卒、日本製鉄株式会社）

＊2 卒業生と語る会

2 回実施

11月20日（金）講師：古賀 千紘（2017年卒、大分キヤノン）

2月26日（金）講師：大山 沙智子（2014年卒、千代田テクノル）

2.3.3 卒業生支援及び卒業生と在校生の交流イベントの開催

卒業生交流会をオンラインにて下記のように開催しました。

「卒業生 Web 交流会」：2月26日（土）

実行委員：藤河研次郎（2009年卒、神戸製鋼所）、松本真太郎（2009年卒、キヤノン）

村上智紀（2009年卒、三菱重工業）

大石一希（2011年卒、三菱日立パワーシステムズ）

参加者 19名

この交流会には在校生も参加可能として、卒業生に仕事のことや就職活動のことについて質問できる場を設けました。また、それ以外に、在校生が Zoom を利用して卒業生と話ができる場を2回設けました。

「卒業生と Zoom で話そう」：11月14日（土）15:00～16:30

卒業生：河本万里子（2010年卒、塩野義製薬）、中重章子（2012年卒、大阪労働局）

参加者 4名

「卒業生との Web 座談会」：12月16日（水）10:30～12:00

卒業生 2名：石丸智弥（2016年卒、AGC(株)）、金愛未（2019年卒、AGC(株)）

在校生 12名

2.3.4. 行事の時期、内容、指導等について

① 1年生を対象とした行事

・9月末に卒業生との懇談会、2月末に卒業生と語る会 2 を実施した。WEB での開催であったが、ほぼ全員が参加しており大変有意義であった。

② 2年生を対象とした行事

・1月末に第1回進路指導ガイダンスを実施した。来年度も現状で良いと思われる。

・卒業生と語る会を2回、卒業生との懇談会を1回、労働基準行政に関する講習会と労働基準監督官採用試験説明会を各々1回開催した。労働基準監督官採用試験説明会は WEB での実施であったが、採用試験説明のほか労働基準監督官の仕事の話もあり、大変有意義であった。

③ 3年生を対象とした行事

・進路指導ガイダンス（5月と1月）、卒業生と語る会 1、2（11月と2月）、労働基準行政に関する講習会（7月）、卒業生との懇談会（9月）、労働基準監督官採用試験説明会（2月）、合同就職対策講座（2月と3月）を実施した。

・就職面接は WEB が主体となっている。2月の就職対策講座にて WEB 面接の詳細な説明を伺うことができ、とても有意義であった。大学への求人数が減少しており、学生自身による積極的な就職活動が望まれる。学生と卒業生の語る会では、先輩方の就職活動を直接伺うことができ、学生にとって大変有益だった。もう少し質疑応答の時間を長く設けることが必要と思われた。3月の合同就職対策講座では、就活の一般的な方法、現状を伺うことができた。また、動画によるマナーの説明もあり大変有意義だった。

④ 4年生を対象とした行事

・1年間にわたり、随時、進路指導委員による個別の面談、エントリーシートの添削や面接リハーサル等を実施した。

・本年度は主な企業説明会は WEB であった。慣れていない学生も多く、きめの細かい指導を実施した。また、就職試験も WEB の企業が多く、今後も対策が必要と思われた。

⑤ その他

・首都圏の事業場訪問を行うことは、緊急事態宣言のため難しかった。対策としてリーフレット（2020年版）を送付した。ラマティーサイトへの登録、求人情報の登録をお願いした。今後もさらに多くの事業場に対して訪問の他、メールや電話による大学紹介なども合わせて計画的に実施していく必要があると考えられた。

・雑誌「安全と健康」(月刊)に学部広告を、「作業環境」(隔月刊)に学科広告を掲載した。

2.3.5. 今年度の進路実績

	22期 R3卒	21期 R2卒	20期 R1卒	19期 H30卒	18期 H29卒	17期 H28卒	16期 H27卒	15期 H26卒
求人数 (関連)	20件 26人	34件 54人	39件 56人	35件 63人	31件 55人	31件 48人	29件 49人	21件 31人
測定機関	8	4	12	3	9	5	12	9
企業	11	13	12	9	7	5	4	3
労働基準監督官		2	1		1			1
大学院						2	2	1
非関連	1			1	1	2	2	4
その他	1		1					

2.3.6. 来年度に向けて

・4年生に対しては以下のような対策を実施したい。

-学生とのコミュニケーションを密にする。随時に各学生との個別の話し合いを設け、学生の就活状況の把握と適切な指導を目指す。

-求人企業についての情報を積極的に進路担当者と学生間で共有する。特に不明点について迅速に対応できるような進路指導を実施する。

・2、3年生に対しては、早めに就職に対する自主的な意識を持たせる。いろいろな行事のほか、就活に係る情報を積極的に配付し、モチベーションを維持させる。

・特に「卒業生と語る会」などで、普段では聞けない実社会の状況なども講師に積極的に話してもらい、社会において役立つ産業保健や安全衛生について理解してもらう。

・事業場訪問を戦略的に行う。

-新規開拓方法として企業訪問のほか、パンフレット郵送、メールやズームなどを積極

的に活用して行う。また、事前に求人のありそうな業種や業界をリサーチして、効率の良い開拓を実施する。

-卒業生と直接会う機会が減っているため、WEB などを利用して、働いている先輩方となるべく多くの会話ができる機会を設ける。そして将来についての意識を高めてもらう。

-看護学科や医学部、産業生態科学研究所と連携を強化する。看護学科や医学部へは進路指導部からの広報もお願いする。

-過去の訪問データを参考に、戦略的に企業訪問先を選定する。-訪問時の状況をデータとして学生に公開する。可能な範囲で進路先を知らせ、新学科の広報も行う。

2.4. 櫛風会（産業医科大学医療技術短期大学・産業保健学同窓会）

1998 年の産業医科大学設置の翌年に設立された、医療技術短期大学の同窓会から始まる「櫛風（きょふう）会」は、産業保健学部同窓会でもあり、毎年夏に総会・懇親会が開催されています。また、在校生に対する支援も複数行っています。しかしながら、本年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、今年度の総会・懇親会を延期いたしました。次年度につきましては、8 月にオンライン開催を予定しており、そのための準備を進めております。

3. 2020 年度の主な教育活動

3.1. 「産業衛生科学科」新カリキュラム概要

環境マネジメント学科は、2020 年度から「産業衛生科学科」と改称し、これまでの教育をベースにしながらも、より高度な専門性を持つ人材を育てるために、カリキュラムを新しく構築しました。

産業衛生科学科が目指す教育について、紹介します。

1) 目指す人材

環境マネジメント学科では、これまで労働安全衛生専門職の育成を教育目標とし、卒業時に「第1種衛生管理者」および「第2種作業環境測定士」の国家資格を取得できる教育を行ってきました。これらの資格を生かし、卒業後は多方面で活躍する人材を数多く輩出してきました。これからの企業は、社会環境の急激な変化や働き方改革で生じる労働者の健康課題に対応するために、法令を遵守するだけでなく、各企業の実況に応じた自律的な産業保健活動が求められます。産業衛生科学科では、これまでの教育を基本とし、さらに社会で生じる新たな課題に対応できる高次の専門職としての役割が重要となることを踏まえ、以下に示す人材を育てていきます。

- ① 高次衛生管理者（人間工学、メンタルヘルス、化学物質管理）
- ② 高次作業環境測定士（リスクアセスメント＋マネジメント）
- ③ 労働基準監督官（法規＋技術）

2) 新カリキュラムの基本方針

上述した人材を育てるために、まず「リスクアセスメントの中心として働く人材の強化」および「衛生管理者の強化」の2大目標を設定しました。「リスクアセスメントの中心として働く人材の強化」については、(1)専門的な化学物質管理者として必要な教育、(2)オキュペイショナルハイジニストを見据えた教育および ISO 45001 に沿った労働安全衛生マネジメントの事項や具体的な対応、(3)第13次労働災害防止計画の重点項目の1つである、死亡災害の撲滅を目指した人間工学的対策を含めた教育の強化、(4)実践力の向上、の4つの強化項目を挙げています。また「衛生管理者の強化」については、(1)労働者の労務管理（過重労働対策やメンタルヘルス対策等）の諸問題に実務レベルで対応し、一次予防ができるような衛生管理者教育の強化、(2)法律の解釈や健康管理の知識を深める、(3)予防医学の観点から、事例検討などの実習機会を増大することで実務能力を高める、(4)管理能力（問題提議力、組織調整力、組織推進力）を有する指導的立場としての能力強化、の4つの強化項目を挙げています。さらに、「基礎学力を高める科目の強化」も追加し、これら全ての項目について、新設科目および内容強化科目を検討しました（別表：新カリキュラム概要）。なお、「第1種衛生管理者」及び「第2種作業環境測定士」の資格取得に必要な科目は、現行通りとなっています。

3) カリキュラム編成の概要

現行区分である「人文・社会学」、「自然科学」、「工学・情報学」、「環境学」、「健康科学」、「産業保健学」および「マネジメント学」の7区分を踏襲しながら、ディプロマポリシーを技術的・専門的に解釈し、新たに「作業環境管理学」、「作業管理学」、「健康管理学」、「労働衛生工学」、「産業衛生総合」、「コミュニケーション＆スキル」および「一般教養」の新7区分を設定し、2)の新設科目を導入しながら整理し直しました。この新区分に基礎教養科目を追加し、順位付けを行う事により学修のステップアップ化を行いました。

4) 具体的な変更点

- ① 全ての科目に対し、大学設置基準の単位および時間数に戻しました。
→単位と時間数が一致するため、学生の単位認識が向上し、選択科目も考えやすくなりました。
- ② CAP 制を導入し、各学年で取得可能な単位数の上限を設定しました。
→無理な選択を防ぎ、全学年で均等な時間割を編成できるようになりました。
- ③ CAP 制の導入に伴い、必修科目と選択科目の切り分け（必修減，選択増）を行いました。
→選択科目を増やすことにより、進路に応じた科目選択が可能となります。
- ④ 新区分の序列に従って、ステップアップ化に伴う学年配分を行いました。
→学年の上昇と専門性の上昇の関係性を徹底しました。
- ⑤ 1 年次に、文系及び未履修者対策として、リメディアル科目を 4 科目設定しました。
→単位無しの補講科目を設定し、文系・理系問わず、受験可能な体制を整えました。
- ⑥ 4 年次に、就職先によって選択できるような科目群を編成しました。
→高次専門職のための科目を 4 年次に設定しました。
- ⑦ 目指す就職先に応じた科目選択モデルを考案し、ガイダンス等で紹介できるようにしました。
→それぞれの目標（高次衛生管理者，高次作業環境測定士，労働基準監督官）に応じて、具体的に選択科目を提案します。各学年の 1 回目の授業を「履修ガイダンス」とし、選択モデルを指南する予定です。

新カリキュラム概要

項 目	科目名等	備 考
リスクアセスメントの中心として働く人材の強化		
1 専門的な化学物質管理者として必要な教育	新設科目： ①化学物質関係法令 ②分析実習 内容強化： ③化学物質管理学(含演習)	①化学物質に関連する法令全般を網羅する ②4年次後学期に専門性と実践力を高める ③実践的演習を加える
2 オキュペイショナルハイジニストを見据えた教育および、ISO45001に沿った労働安全衛生マネジメントの事項や具体的な対応	内容強化： ①キャリアアップ I・II・III ②産業保健英語 I・II・III・IV	①インターンシップ、企業見学、測定士体験等の機会も設ける（実践力強化） ②国際交流を含む
3 第13次労働災害防止計画の重点項目の1つである死亡災害の撲滅を目指した人間工学的対策を含めた教育の強化	新設科目： ①安全行動科学 内容強化： ②人間工学 ③人間工学実習	①ヒューマンエラー防止対策 ②時間数を増やす ③実習内容を強化する
4 実践力の向上	新設科目： ①産業衛生研究法 ②労働衛生管理総合実習 内容強化： ③キャリアアップ I・II・III	①研究手法の習得 ②測定士および衛生管理者双方の実務を体験できるようにする ③インターンシップ、企業見学、測定士体験等の機会も設ける（実践力強化）
衛生管理者の強化		
1 労働者の労務管理（過重労働対策やメンタルヘルス対策等）の諸問題に実務レベルで対応し、一次予防ができるような衛生管理者教育の強化	内容強化： ①メンタルヘルス概論 ②労働基準法	①演習・実践も加える ②労務管理を追加する
2 法律の解釈や健康管理の知識を深める	新設科目： ①災害事例研究(含演習)	①過去の事例に学ぶ
3 予防医学の観点から事例検討などの実習機会を増大することで実務能力を高める	新設科目： ①労働衛生管理総合実習	①測定士および衛生管理者双方の実務を体験できるようにする
4 管理能力（問題提議力、組織調整力、組織推進力）を有し、指導的立場としての能力強化	新設科目： ①産業保健経営学 ②産業保健経済学 ③組織論 ④教育学 ⑤社会科学基礎 ⑥社会科学	①～⑥基礎及び実践的演習科目を配置し、進路が決定してからでも必要な科目を選択できるようにする
基礎学力を高める科目の強化		
1 専門につながる基礎学力の強化	内容強化： ①数学基礎 ②物理学基礎 ③化学基礎 ④生物学基礎 ⑤英語B(含TOEIC) ⑥英語C(論文抄読)	①～④各分野に基礎を開設する ⑤これまで選択だったTOEICを必須とする ⑥論文抄読を新たに含める

「第一種衛生管理者」及び「第二種作業環境測定士」の資格取得に必要な科目は現行どおりとする

3.2. 現場実習、インターンシップ

環境マネジメント学科では、卒業と同時に 2 つの国家資格が得られることにふさわしい実践的な教育の機会を提供しています。3 年次に、実際の事業所に赴き、作業環境測定士あるいは衛生管理者の仕事を経験し、自身の学修の振り返りとともに卒業後の将来像がより具体化するようにしています。

また、2 年次と 3 年次には、選択科目として「インターンシップ」を履修できます。

3.2.1. 現場実習（3 年次、21 名）

3 年生の「作業環境管理学実習Ⅰ」では、作業環境測定に必要なサンプリングと分析の手技を学内で学んだ後、測定対象物質と法令等についての予備調査とその発表を終え、全員が一つの事業所で 3 日間の現場実習を行います。現場実習では、3 年生の前期までに学んだ作業環境管理に必要な知識を総動員して、作業場の状況把握から測定のための図面作成と測定点の設定（デザイン）、作業環境測定の実施、捕集後の分析、測定値をもとにした作業場の環境評価と改善策の提案をまとめ、報告書を作成し発表を行っています。



また、「作業環境管理学実習Ⅱ」では、3 年生の 21 名が 3 日間の現場実習を 10 事業所（作業環境測定機関 5 事業所、製造業 5 事業所）に分かれて履修しました。その後、学んだことをまとめて報告会を行いました。

産業衛生科学科の新カリキュラムでは、作業環境測定機関と衛生管理者がいる事業所の 2 か所の現場実習を必修としています。

3.2.2. インターンシップ

北九州地域産業人材育成フォーラム及び九州インターンシップ推進協議会に加盟しており、それぞれの枠組みで受け入れ事業所とのマッチングを実施しています。現在は 2～3 年次の選択科目ですが、2020 年度入学者からは必修科目となる予定です。

地元の製造業での就労体験や、福岡労働局のインターンシップでは、学生の地元の労働基準監督署での業務体験を通じて、今後の進路に向けた学修目標の設定に役立てることが出来ます。

2020 年度は、コロナ禍の中でも 5 日間のインターンシップを 3 年生 4 名が 4 か所に分かれて履修し、学んだことをまとめて報告会を行いました。

3.3. 学生（および卒業生）の学会講演

環境マネジメント学科では、卒業研究の成果について 4 年生に、学内の産業医科大学学会はもとより、日本労働衛生工学会あるいは日本産業衛生学会等で、学会発表することを奨励しています。新型コロナウイルス感染症対策の影響があり、学会の中止や卒論研究も制限を受ける中でも、いくつかの学会発表がなされました。ただ、最近の学生は緊張していると言いながら、自身の過去を振り返ると、結構しっかり発表できているものも多いと感じます。（下線が学生（卒業生を含む））

A) 第 38 回産業医科大学学会（北九州、10 月 10 日）

- ・奥彩加，石田尾徹，保利一，山本清司，坂口昇平：光触媒溶射吸着剤を用いたメタノールの吸着・分解特性。
- ・井ノ口真至，石松維世：2 種類の PM2.5 サンプラーによる浮遊微生物濃度の比較。
- ・旗生智，保利一，石田尾徹：カラムを併用した PID センサーによる混合有機溶剤蒸気の濃度分析。
- ・藤井栄宜，石田尾徹，山本忍，保利一，内藤敬祐，寺田庄一，中家隆博，安田知恵，清原一益，吉田晃至：エキシマランプを有する局所排気装置を用いたホルムアルデヒドの分解特性。
- ・宗元亜美，原邦夫：化学物質のリスクアセスメントにおけるリスクの見積もりツールの分かりやすいリスト化。
- ・西村大輝，原邦夫，伊藤昭好：従来の測定方法である A・B 測定と新たな作業環境測定である個人サンプリング法の C・D 測定との比較。
- ・植木詩織，樋上光雄，原邦夫，中島民治：骨の分析から考える琉球王朝時代の沖縄の人々の金属汚染について

10.10 第38回 産業医科大学学会総会を開催

10月10日（土）、第38回 産業医科大学学会総会を一部web上で開催しました。午後の部は、第32回 産業医学推進研究会（産推研）全国大会と共催でした。一般演題（ポスター発表）54題はweb展示とし、10月1日から30日まで閲覧可能としました。ポスター賞の受賞者は、樋上 光雄 先生（作業環境計測制御学）、箕原 里奈 先生（HOYA株式会社）及び川崎 祐也 先生（職業性腫瘍学）の3名が受賞されました。

午前に学会長賞の受賞者講演をラマツイーニ大ホールで行いました。受賞者は、北野 哲司 先生（第2内科学）、黒住 旭 先生（若松病院リウマチ糖尿病内科）、西村 春来 先生（整形外科）の3名と、特別賞として産業保健分野から鈴木 英孝 先生（アッシュコンサルティングサービス合同会社）が受賞されました。

午後からは、産推研との共催で完全にweb開催とし、ラマツイーニ大ホールはパブリックビューイング会場として開放しました。まず、学会主催シンポジウム「新型コロナ対応について」を、厚生労働省医療安全推進室の諸富 伸夫 室長と国際医療福祉大学公衆衛生学の和田 耕治 教授をシンポジストに行いました。次に、産推研主催講演会として「幸福学の実践について」というテーマで、トヨタ自動車株式会社人事部統括精神科医主査 奥山 真司 先生にご講演いただきました。

最後に「新時代を語る」という特別企画にて、新学長 尾辻 豊 先生と新産推研会長 西 賢一郎 先生に、今後の産医大と産推研の将来について対談していただきました。懇親会はオンライン上で産推研が主催されました。

今回、web開催にあたり、産推研の皆様にご多大のお世話になりました。この場を借りて感謝申し上げます。

（産業医科大学学会総務理事 岡崎 龍史）



図 産業医科大学ニュース 2020 年 10 月号 (No.661) より

3.4. 個人サンプリング法に対応するために機器整備

令和2年度の“作業環境測定基準”に改正により、労働安全衛生法第65条の作業環境測定に個人サンプリング法が導入されました。それに伴い本学科においても、学生にその教育を行う必要があるため、個人サンプリング法で使用される機器を新たに導入しました。その一例を紹介します（写真は柴田科学 HP より）。これらの機器を使用し、次年度以降に個人サンプリング機器を使用した実習や講義を行っていく予定です。



デジタル粉じん計 LD-5R 型（柴田科学 HP より）



パーソナルミニポンプ MP-W5P 型（柴田科学 HP より）

3.5. 国際交流

新型コロナウイルス感染症対策のため、2020年度の国際交流事業はほぼすべて中止となった。ごくわずかに、ネットを使った令和2年度国際遠隔講義に協力することができた。

3.6. 産業医研修

産業医科大学は働く人の健康を保持増進する目的で設立されています。産業医の育成には様々なコースが設けられ、環境マネジメント学科の教員も講師として関わっています。

1. 産業医科大学主催

研修会等 名称	氏名	担当講義等	実施 日数	講義・実習 回数	実施 都市名
産業医学 実務講座	宮内 博幸	作業環境管理概論	2	2	北九州
		作業環境の評価と対策	2	2	北九州
		作業環境改善実習	2	2	北九州
	石田尾徹	排気・換気装置の理論と応用	2	2	北九州
	伊藤 昭好	人間工学チェックリスト	2	2	北九州
	原 邦夫	有機溶剤対策を中心とした作業環境改善	2	2	北九州
	石松 維世	室内環境：一般（測定と対策）	2	2	北九州
	庄司 卓郎	危機管理	2	2	北九州
		ヒューマンエラー	2	2	北九州
		安全・品質管理	2	2	北九州
	山田 晋平	作業姿勢の評価	2	2	北九州
	樋上 光雄	現場実習（環境の評価と対策）	2	2	北九州
	山本 忍	現場実習（環境の評価と対策）	2	2	北九州
産業医学 基礎研修会	宮内 博幸	作業環境管理	2	2	北九州
	伊藤 昭好	参加型産業保健活動プログラム	3	3	北九州
	石松 維世	作業環境測定（実習）	2	10	北九州
	樋上 光雄	作業環境測定（実習）	2	10	北九州
	山本 忍	作業環境測定（実習）	2	8	北九州
産業保健実務 スキルアップ セミナー	樋上 光雄	職場巡視で便利な簡易測定機器	1	2	名古屋
		作業環境測定結果の読み方	1	2	神戸
産業医学 基礎研修会 東京集中講座	石松 維世	作業環境測定（実習）	1	4	府中
	樋上 光雄	作業環境測定（実習）	1	4	府中

2. 各地医師会等主催

新型コロナウイルス感染症対策のため、2020年度の各地の医師会等主催の事業はほぼすべて中止となった。